

景況DI値は製造業が回復を維持するも、非製造業は後退



概況(全体)

4月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが13.3%(前回調査6.7%)、「悪化」が48.3%(同50.0%)で、業界全体のDI値は-35.0となり、前月調査と比較し8.3ポイント回復している。

全国及び東北・北海道ブロックの景況DI値も全体的に回復傾向を維持しており、生産活動と消費活動の活性化がみられる。

しかしながら、景況回復を実感している業種には偏りがあり、新型コロナウイルスの影響を強く受けている業種においては、先行き不安が高まり、人員削減や廃業を検討する企業が引き続き見られる。

業界別の状況

大都市圏では緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が講じられているが、県内に目を向けると、製造業では前年同月比で業況を「好転」したと回答する業種割合が増え「悪化」と回答する割合は減少した。

また、非製造業においては、業況を「不変」及び「悪化」とする回答が依然として多し、「好転」とする回答もあった。しかし、その内容は前年同月の休業状態の結果と比較しての回答であり、楽観的なものではなかった。

全体的には、新型コロナウイルスの感染者数が増加している中ではあるが、業況は回復傾向を示している。ワクチン接種に伴い更なる進展を期待したが、一部業界ではコストが増加傾向にあることを懸念している。

全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-35.0	-33.5	-31.4
製造業	-20.8	-32.8	-28.7
非製造業	-44.4	-34.0	-32.8

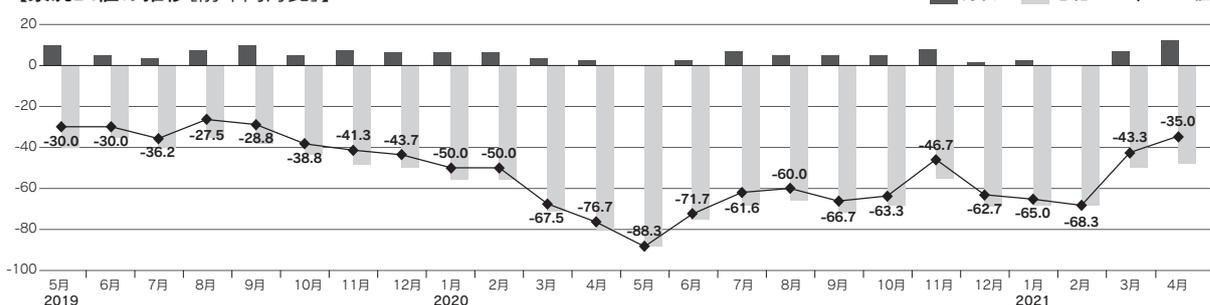
景況天気図

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☔	☔	☁	☁	☔	☔	☔
非製造業	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔

【凡例】
 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 曇り △10以上 △30未満
 雨 △10未満
 雷雨 △30以下
【天気図の見方】
 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

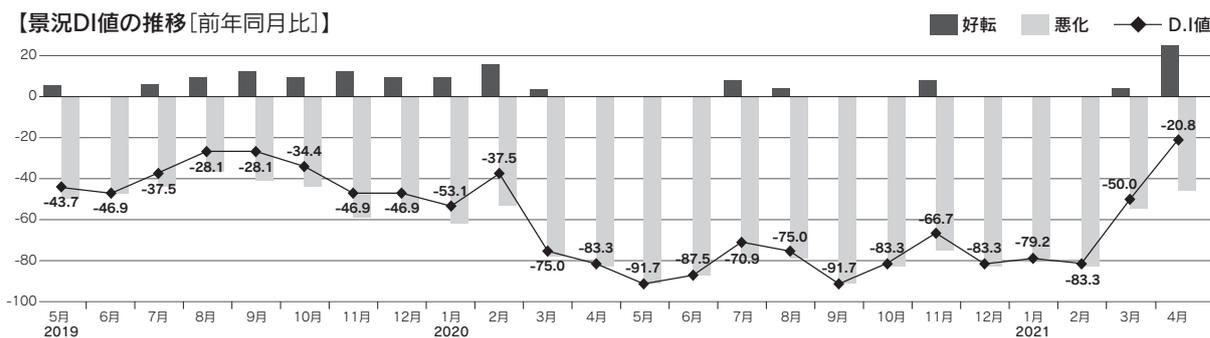
【景況DI値の推移[前年同月比]】

業界全体



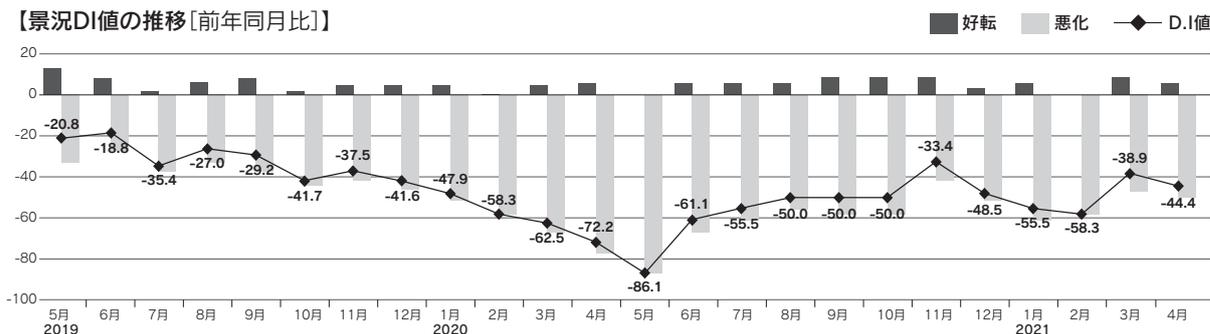
【景況DI値の推移[前年同月比]】

製造業



【景況DI値の推移[前年同月比]】

非製造業



●製造業

(回答数:24名 回答率:100%)

【食料品(豆腐)】

依然としてコロナの影響は続き回復の兆しはない。昨年は学校給食が休止されていたが、今年は休止はなかった。それにもかかわらず、対前年比98%止まりであった。

【食料品(パン)】

4月に入り食パン、菓子パンともに売上が低下しており、原因は不明である。また、全国的にパン業界は販売が不振な状況となっている。

【繊維工業(ニット)】

新型コロナウイルス感染拡大の終息が見通せず、ファッション衣料の春夏物の販売不振が続いているため各社受注確保に苦戦している。昨年のような医療用ガウンの緊急発注も今年は無く、4月から雇用調整助成金を活用して休業せざるを得ない組合員もいる。

【木材・木製品(一般製材)】

米国、欧州からの外材の輸入量が激減していることから、国産材の需要が急速に高まり、国内の製材工場の生産が追いつけない状況になっている。製品の供給不足から製品価格も上昇しており、この状況は年内は続くものと予測している。

【窯業・土石製品(生コンクリート)】

4月の出荷数量は前年同月比85%前後。今年度は出荷数量が(582,000m³ 前年実績比98.6%)と前年をやや下回る想定をしているが、コロナ禍でもあり現場での工事中断等も考えられることから、来月以降も厳しい状況が続くと思われる。

【鉄鋼・金属(鉄鋼)】

今月に入り鉄骨等の原材料が値上がり傾向にあり、組合員の中には既に資材商社から値上げの通達を受けた企業もある。要因は原材料の品薄感にあり、厚板等の一部原材料については通常期に比較して入荷までに時間を要するものも出てきている。反対に鉄骨需要は全国的に見ると大きく伸びておらず、製品価格は値下げ要望が出てきている。

【一般機器(金属加工)】

業況は地区内総じてボトムアップ傾向である。一部の企業においては先行きが見えてきている事業先もある。しかし、単価や納期など取引条件は厳しいものが依然として多い。

【その他の製造業(漆器)】

昨年の4月は新型コロナウイルスの影響があり、2週間ほど工芸館の休業をしたことで、ほぼ売上がない状況だった。今年の4月は、休業することもなく営業したが、前年同月と比較すると売上は増加したものの、例年より半減している。

●非製造業

(回答数:36名 回答率:100%)

【卸売業(米)】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言が消費地である首都圏を中心に発令され、またさらに延期になる可能性が高いことから、外食による消費の回復が見込めず当組合の在庫も例年になく多い状況となっている。そのため、保管料や金利等の経費が掛かり増しになっており、近年になく在庫の多さに危惧している。

【小売業(自動車)】

4月の新車販売台数は登録車1,471台(98.5%)、軽自動車1,596台(136.8%)、合計3,067台(115.3%)であった。

【小売業(花卉)】

相変わらず仕入れは高値が続いている。また、葬儀や婚礼も変わらず回復の兆しが見えない状況である。

【商店街】

緊急事態宣言発出地域や近隣の感染状況に影響され、来街者の減少傾向がみられる。仕入先からの営業社員も来訪することが無くなり、情報の欠如状態が経営戦略にも多大なマイナスを生じさせている。

【サービス業(旅行)】

昨年4月の取扱額はゼロであったが、今年は国内旅行が十数万円程度の取り扱いがあった。前年同月比とするとプラスではあるが、回復しているとは言い難い実績である。

【サービス業(タクシー)】

一部地域では、新型コロナウイルス感染症のクラスターの発生により、夜の繁華街が閑散となったことによる影響が非常に大きい。

【建設業(電気工事)】

新築住宅物件は好調だが、ハウスメーカーが主導なこともあり利益は薄い。(中央地区)

【運輸業(トラック)】

輸送量は増加しないまま、軽油価格が昨年より1ℓあたり25円高くなり、採算が悪化している。(中央地区)

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。